

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775802214		
法人名	有限会社 永世会		
事業所名	グループホーム 成寿苑 (1ユニット)		
所在地	大阪市平野区平野東4-1-26		
自己評価作成日	平成26年6月19日	評価結果市町村受理日	平成26年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanistrue&amp;JigyosyoCd=2775802214-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanistrue&amp;JigyosyoCd=2775802214-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年7月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【理 念】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できる事は自分でやります</li> <li>・私は私も大切だけど 共同で生活しています</li> <li>・笑ってばかりいられない 怒る時も泣く時もあります</li> <li>・社会の中の地域で暮らします</li> <li>・私にとつての『普通の暮らし』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できない事は協力します</li> <li>・迷う事あっても大丈夫 まかせてください</li> <li>・「いってらっしゃい」「おかえりなさい」 いつも笑顔で</li> <li>・人生の先輩 教えて頂く事たくさんあります</li> <li>・成寿苑には『あなた』が必要</li> </ul>
-------	--	--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは昨年度2ユニットから3ユニットに増築し、新たな利用者を迎えて再スタートをしています。利用者との信頼関係を築く事を大切にされた支援の中で新ユニットの利用者も早期にホームの暮らしに慣れ落ち着かれています。またホームでは地域のふれあい喫茶や図書館など、豊富にある社会資源を積極的に活用し、利用者が地域の方と交流できる機会を多く作り、日常の中で変化のある暮らしの提供へと繋げています。職員は利用者の立場と職員の立場で表現された理念の大切さを機会ある毎に再確認し、利用者ができる事を見極めた支援を心がけています。利用者は日々の暮らしの中で役割を持ち積極的にできる事に携わることで、生き生きと生活されています。職員は利用者の安心した暮らしへ繋がるよう利用者に寄り添い、個々の思いに添った暮らしの提供に努めています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くいない</li> </ol>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念として、運営者のごあたりまえの身近な思いを表わし、掲げている。『理念』について深く考え入社時研修時にも共有すべく力を入れている。「その方にとっての普通の暮らし」を常に意識し目標にしている。毎朝の朝礼時に全員で唱和し、申し送り・ミーティング・苑内研修時にも事あるごとに立ち返り共有し実践に向けて取り組んでいる。	職員一人ひとりが利用者の立場と職員の立場に立って出し合った言葉を基に作られた理念を掲げています。理念はフロアに掲示し、朝の申し送りでは利用者も一緒に唱和することもあり、利用者とも共有に努めています。理念の大切さを再確認する機会を多く持ち、利用者ができない事を見極めた支援に努め、実践に活かしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な近隣のパン屋さんなどの商店への買い物や散歩に出かけている中で、挨拶を交わし、気軽に声を掛け合えるきっかけ作りに努めている。地域の公園の愛護会に賛同し、定期清掃のボランティア活動協力、地元の祭りや盆踊り大会などに利用者と共に積極的に参加している。地域交流会や地域ネットワークのふれあい喫茶にも積極的に参加している。	町会に加入し、地域で行われる掃除やふれあい喫茶、祭りなどの行事に利用者も参加し、地域の商店や図書館など、地域の社会資源を積極的に活用し交流しています。中学生のボランティアの受け入れや吹奏学部の慰問の他、地域の方のギター演奏や歌体操などの来訪もあり、地域に根付いた交流の機会を多く持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から認知症や介護についての相談を受けた際には事業所での実践内容や培ってきた成果を伝える取り組みをしている。人材育成のため実習生受け入れや認知症キャラバンメイト登録など地域に貢献できるように心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表者は隣家住人の方が構成委員としてご参加下さっており、入居者様の日々の声や表情、ホームでの暮らしぶりを真近に見守って下さり、ご意見を頂きやすい。	会議は利用者や家族、町会総務部長、地域包括支援センター職員などの参加の下に隔月に開催しています。ホームの状況や行事、訓練などの報告を行い、意見交換したり、相談に応じています。意見をを受けて夜間の足元を照らす明かりを設置したり、消防訓練時には近隣に書面で知らせるよう改善するなど運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大阪市グループホームネットワークやリーダー研修、近隣地区との勉強会などでお顔合わせの機会も多い。当苑の活動や実践状況に関しても随時報告している。	市主催のグループホームネットワークに参加し情報交換したり、リーダー研修などに職員が参加しています。担当者にホームの状況を伝える機会もあり、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	随時、身体拘束防止についての話し合いを行い、常日頃から拘束のないケアを心掛けている。疑問があれば相談し合える体制作りに努めている。 玄関に関しては常に施錠している状態ではあるが外へ出たい思いをキャッチした場合にはいつでも解錠できる扉である事をスタッフ一同共に心掛け、ご入居者に伝えている。	入職時の他、定期的に身体拘束に関する研修を行い全職員に周知しています。転落防止の為、家族の同意を得て夜間のみベット策を使用している方は1日の変化などを詳細に記録に残しています。玄関は安全のため施錠していますが、利用者が出たい時には鍵を開け自由に出入られるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーフレットを冊子にし、マニュアルとしている。入社時研修に徹底しており、苑内研修としても定期的に学び、周知徹底を図っている。		

グループホーム成寿苑(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方には活用できる支援を行っている。制度についても積極的に学ぼうと努め、活用に向けての選択肢としても提示できる様に努めている。現在活用されている方には活用の継続に協力と支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項の説明と共に事業所の方針とケアへの取り組み、起こりうるリスクについて、利用者と家族、事業所との共通認識となるように詳しく説明し同意を得ている。解約時にも同様に今後の方針を話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の立場に立った運営やケアができる様、ご様子から思いを察することが出来る様、務めており、その都度、思いに傾聴している。玄関先に『ご意見箱』を設置しご意見を頂きやすい環境に配慮している。	利用者の意見は日常の中で聞き、実現できるよう努めています。家族の意見は、運営推進会議や面会時に利用者の様子を伝える中で聞いています。個別の意見についてはその都度対応すると共に体重増加について出された意見を受け、全利用者の食事量について検討したり、運動を取り入れるなど運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はスタッフと関わる時間を大切にしており、気さくな間柄で信頼関係を築いている。普段の何気ない会話の中からも意見や提案・要望を聞き出せるよう心掛け、働く意欲向上に繋がる様に努力している。ミーティング時に意見を出し易い環境作りに努めている。	全職員が会議に参加し易いよう会議を分けて開催し、職員が意識を持って運営に携われるよう工夫し、意見を出し合っています。代表者や管理者はパート職員も含めて個別に声をかけ、意見や相談、悩みなどを聞いています。意見を受けて希望の研修を実施し学ぶ機会を提供する等、意見を反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持てる働きかけを考えている。研修、資格取得に向けた配慮と支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの能力や実績に見合って法人外研修を積極的に受講させる様に努力している。苑に持ち帰り他のスタッフへ反映させている。苑内研修にてスタッフへ知識共有と日々のケアに繋げていける様、その時期に必要な周知事項を研修内容として検討・実施。大阪市グループホームネットワーク主催の勉強会に参加している。日々の介護記録やカンファレンスシートにセンター方式を取り入れ、認知症介護のOJTを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市グループホームネットワークに加入。サービスの質の向上、職員育成に向けて、会主催の勉強会、他事業所間・他事業所現場スタッフ同士の交流と意見交換の場に参加し、実践ケアに活かせる様努力している。他事業所と相互の協力、交流の機会を作っている。		

グループホーム成寿苑(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談にて直接利用者の自宅へ出向き生活状態を把握できるように努めている。安心してご契約して頂ける様、ショートステイ体験入居を利用して頂いた上でご入居に至れるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談を受けた際即、何かしらの対応をする様に心掛けている。当苑の空きが無く対応出来ない場合には平野区及び近隣区の空き状況を情報収集の上情報提供させて頂いている。ご家族のご要望やj困り事の解決が当苑を選定することにより可能かも考えずすめていく様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談を受けた際、本人と家族の真のニーズと、当サービス・当苑を利用されることが適切であるのかを照らし合わせてお話を進めていく様に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『利用者は人生の大先輩』『主体は利用者』を念頭に置いている。利用者、職員の関係だけでなく、人対人、共に支え合える関係作りを目指している。『喜・楽』は勿論、『怒・哀』を生きる中で当り前の感情として捉え、不安や辛さへの理解と共感に努めている。利用者の生活歴に触れ、様々な面で教えて頂く場面が多く、そういった場面設定支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご来苑の際、利用者の様子や状況の変化、支援の取り組みについて報告している。ありのままの状況を伝え、ご家族に対して必要な協力を得られるように事前に報告している。両者の『家族を想う気持ち』を大切にし家族の代行という支援と家族の役割を相互に考え支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室通って頂いている。一時帰宅でこれまでと同じように家族と過ごす時間を作ったり、馴染みの地の地元のお祭りに参加したり…。1人ひとりの人間関係や習慣が継続することが出来る支援をしている。暮らしづくりが報告できる機会としても季節の便りを支援している。	親戚や地域で活動していた時の仲間や友人などが会いに来られており、居室に案内しゆっくりしてもらったり、会いに来られた方には暑中見舞いや年賀状を出せるよう手伝い、次の面会に繋がるよう支援しています。馴染みの理美容院に通えるよう送迎を支援したり、会話の中に出てきた通天閣などにドライブを兼ねて出かけています。また家族の協力を得て墓参りなどに出かける方もおり、これまでの関係を大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った利用者同士で過ごして頂ける様にハード面での工夫と場面作りに努め、それを遠くから見守る姿勢を実践している。ティタイム・食事時間を職員も共にし利用者間の会話を持てるよう支援。毎朝夕の申し送り、カンファレンスで関わり様子や内容についてスタッフ間の連携と情報共有し、話題を保てるよう配慮している。		

グループホーム成寿苑(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人にとって、前居であった歴史と繋がりを大切に考えている。ご転居先を訪ねることもある。看取りを支援させて頂いたご家族との交流も保ち、必要なご相談に答えさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握に努めている。コミュニケーションを通じて表情や会話の中から希望や意向を汲み取る様に努めている。日々の介護記録やカンファレンスにご本人の実際の言葉を採用できるセンター方式を活用している。ご本人の言葉に隠された想いに寄添えるべく努めている。	入居時に利用者や家族と面談し、暮らしの状況や生活歴、趣味などを聞いたり、利用していたケアマネジャーから得た情報や医療情報なども加味し意向の把握に繋げています。入居後は日々の記録や利用者の言葉で伝えられない思いや心情を推し測りながらカンファレンスで話し合い、思いが把握できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の関わりで自身の語られる言葉の中から、また、家族の語り、互いの会話の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が一人ひとりの生活リズムを把握できる様に努めている。日々の申し送りの中で身体面や病状の変化、精神的変調を伝え合い、経過を追いながらケアをすすめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りの中で現状を確認し、本人・家族からの情報とセンター方式を活用した情報を元に、ご本人の暮らしや思いに沿った課題をカンファレンスで意見交換し、介護計画に反映させている課題を分析し、介護計画を作成、実施、見直ししている。	本人や家族の希望などを基に介護計画を作成しています。日々の実施状況を確認し毎月モニタリングを行い、半年毎に計画を見直しています。見直しの際にはカンファレンスを開き、全職員が利用者の思いについて記載した物を持ち寄り、具体的に話し合っています。また利用者の思いをまとめた物は家族にも確認してもらい意見を聞いています。必要な方は事前に聞いた医師の意見を反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録がより生きいきと記すことができる様、本人が何を見てどんなことを感じるのか、本人が行動するきっかけと実際の行動、言葉をダイレクトに記すことができるセンター方式を採用し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その瞬間に感じた行動を制限しない支援に重点を置いて実践に努めている。地域資源の活用を努力し、入居前に利用されていたサービス事業所に遊びに行くなども他事業所の協力を得る努力もしている。一緒に生活している三匹の犬の存在も大きく、餌や糞尿の世話、シャンプー後に毛並みを整えることなど、『命を守る存在』がある。愛おしく犬を抱きしめ、心の穏やかさを取り戻される様子や犬を相手にお話やお昼寝をされる様子、人形やぬいぐるみにはない役割を担っている。		

グループホーム成寿苑(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあい喫茶の利用は頻度が高く、地域の祭りや催し事に積極的に参加し、地域に暮らす一員として市民交流の場に積極的に参加できる支援を実施している。地域校区の中学生の福祉活動に協力し、学生ボランティアの受入れ、吹奏楽部の慰問など異世代交流の機会がある。また、地域にお住まいの方々のご協力が多く、ギター演奏会や歌体操教室などのボランティアをはじめ、地元青年団協力を得られる機会もあり、地域の祭りにも参加、暮らしが豊かになれる様に働き掛けている。近くの図書館を頻繁に利用されていることなど地域資源活用を充実できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な緊急時体制を整え、取り組んでいる。	以前のかかりつけ医を継続することは可能ですが、月2回の往診があり、24時間連携が取れる協力医についても説明を行い、現在は全員がホームの協力医に変更しています。専門医への受診は家族が対応し、場合によっては職員が付き添うこともあり、家族とはその都度情報を共有しています。また個々の希望や状況に合わせて訪問歯科を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師は職員との連絡・連携にて日常生活状況を把握、健康管理とアドバイスしてくれる。随時、主治医へ報告、連携を取ってくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	どんな状況であっても、ご本人らしさが重視して頂けるよう生活歴など解り易く伝えられるよう努力している。地域の連携としても良い関係を保っている病院もある。入院でお世話になる医療機関は状況により定まっていないので新たにお世話になる病院との連絡、連携も努力している。ご退院調整についても、ご本人の一番良い選択をご家族を交えて話し合いながら、退院指導にはできるだけ参加している。入院先では担って頂けない事柄に関しては連携の下できる限りの協力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期だけでなく、病状に応じて、本人や家族の意向に伴い、主治医の治療方針と苑の方針とを話し合う機会を作り、思いの共有に努めている。	入居時に家族の協力が得られる場合などは希望に添って看取り支援を行える事を伝えていきます。これまでに支援の経験があり、医師や家族と話し合いを重ねできる限りの支援をしています。また看取りの支援に入る前には職員の思いを聞くための話し合う機会を持ち、職員も方針を理解し共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの備えあり。 緊急時の連絡体制を整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火避難訓練を2回/年実施しており、火災発生時の通報手順・避難経路・消火方法など全職員、全利用者参加の下訓練を行っている。事業所内だけの訓練と考えず、隣家・地域住民の参加と協力を得ながら訓練を実施している。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行い、1度は消防署の協力を得て実施しています。訓練は地域の協力が得られるよう運営推進会議で案内や報告を行い、利用者と共に隣家など地域の方の協力を得て実施しています。また地域で行われる訓練には利用者と共に参加しています。	

グループホーム成寿苑(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念通り、一人ひとりを大切に考え支援している。普段の生活の中での言葉かけや言葉使い、口調にも配慮しながら関わっている。カンファレンスの度に個人の誇りや尊厳を損ねることのない対応を徹底できる意識向上を図っている。	利用者は人生の先輩として敬うことを理念に謳われており、対応などについて具体的に書かれたものを全職員に配布し周知しています。職員は高い意識を持って日々のケアに努めており、不適切な対応があればわかりやすく伝えながら指導したり、カンファレンスや会議などで話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	主体は利用者にあることを日頃から念頭に置き支援している。表情での汲み取りに努め、自己決定できる場面を多く持ち、受容の姿勢と体制、選べる環境を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個性性が重視できる支援を心掛けている。これまでの生活歴を尊重し、個人の生活を大切にしながら共同生活を営める様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行き慣れた馴染みの美容室の継続利用を支援している。美容室側も苑の働き掛けをご理解下さり、ご協力下さっている。女性であれば外出時には、化粧を施し、いつまでも女性である気持を持ち続ける支援、気分転換の支援を実施している。 男性の髭剃り声かけなど身だしなみ支援を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理準備～後片付け迄を食事の一連として考え、各々の力に添った役割を持ちながら食を楽しんで頂けることに努めている。	業者が立てた献立に沿って食材が届き、業者には月に1度利用者の声を伝えていきます。利用者は揚げ物など料理全般を行える方もおり、個々に応じてできる事に携わってもらいながら一緒に作り、職員と共に談笑しながら食事を摂っています。時には利用者の希望を聴き、食材を止めてお好み焼きなどを作ったり、回転寿司などの外食に出かけることもあり、食事が楽しめるよう支援してます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取状況を記録している。状況の良し悪しを申し送り話し合い、情報として共有している。個別のバランスについても把握に努めている。体調や認識力、嚥下状況に応じて食べ易く、飲み込み易い形状を工夫している。病状に合わせて水分・塩分のバランスも考え、調理方法も個別に対応している。特に朝食のスタイルは各々の習慣の違いが大きくみられる。ここでも習慣継続と自己決定の場面として支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で義歯管理している方、すぐに紛失してしまう方等それぞれ個々の有する力に合わせた支援をしている。毎食後の歯磨き誘導・口腔ケア実施、毎晩の洗浄を促し支援を行なっている。歯科医との連携、口の中の健康と食事の楽しみに繋げている。		



グループホーム成寿苑(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムやパターンを探るため、排泄チェック表を付け、個々の排泄リズムの把握に努めている。排泄のサインや排泄時の迷いをいち早く気づく事でおむつの使用や失敗をなるべく減らすことができ、トイレでの排泄が保てる様支援。皮膚トラブルを防ぐなどの利点や本人希望で布パンツをはき続けることが出来る様支援している。	基本的には日中は布の下着で過ごせるよう、排泄記録を参考に全利用者の排泄リズムや習慣などの把握に努め、トイレで排泄ができるよう支援しています。パットの種類や紙パンツ、夜間のみポータブルトイレを使う方など習慣も加味し、個々に応じた物を使用するようにしています。タイミングを見た適切な誘導で布の下着に改善した方もおり、自立に向かえるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の量、形状と日頃の食事・水分摂取量、運動量、体調を比較し考え、働き掛けている。職員の意識とスキルの向上を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の思いや希望を最優先している。それ以外では、身体の皮膚状態の観察が必要な為、定期的な入浴の予定は立てているが、順番の希望を聞いたり、一日の予定の中に組み入れる支援をしたり、その他、個々のスタイルを保つ為の要望を柔軟に取り入れている。銭湯に行く楽しみも支援している。	入浴は週に2回以上入れるよう朝から夕方までの間に声をかけて入ってもらい、希望で毎日入る方もいます。好みの湯温で一人ずつ湯を入れ替え、季節の柚子湯や気の合う方と一緒に入ったり、銭湯に行くこともあり、個々の習慣を取り入れながら入浴が楽しめるよう支援しています。またできる限り同性介助で対応するようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中活動を促し生活リズムを整える様に努めているが一人ひとりの生活習慣を尊重し、各々の休息方法を取って頂ける様に支援している。不眠は精神面に大きく影響するので、睡眠の質と時間を申し送り合わせ不眠改善を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の定期・臨時処方最新の薬情をファイル化し、使用している薬の目的や注意事項を全職員が理解しやすい状態にしている。医師から薬の変更や追加指示があれば、変更・追加理由と目的、回数と期間、注意事項を申し送り共有し誤薬や飲み落としのない様に努めている。薬剤師の先生にご協力頂き、用法等を詳しく説明して頂ける機会を作り、全職員に対し服薬管理の重要性を意識付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	車での遠出外出、、マラソン大会、音楽演奏、カラオケ、花の栽培、外食や銭湯などの個々の趣味・気分転換法を取り入れ、レクリエーションの機会も作っている。三匹の犬とのふれあいや散歩で商店街を有意義に歩くなど気晴らしが出来る機会を図っている。生活動作の力に沿い、生活歴に合わせ、個々の得意な事で力を発揮できる役割を持てるよう支援している。役割が張り合いになり、自信に繋がる支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今までの生活の継続で思いついたときに行き慣れた店に買い物やお茶を飲みに行かれたり、図書館へ行かれたり、気軽に戸外へ出かけられる環境を作っている。盆踊りや祭りに参加したり初詣参拝など季節を感じて頂ける支援を続けている。家族との散歩や外食にも気軽に出かけられる様子も日常的にあり、支援に取り組んでいる。	季節に関わらず、日常的に近隣の公園に散歩に出かけたり、買い物や地域の図書館、喫茶店などに出かけています。弁当を持って花見に出かけたり、いちよう並木、初詣、地域の祭りなど季節の行事にも出かけています。またエントランスやベランダ、テラスが広く、花や野菜の世話、洗濯物干しなど自由に出入りができ、外気に触れる機会が多くあります。	



グループホーム成寿苑(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際は清算時の計算と支払の機会を持って頂いている。理解の力に応じて現金を自身で管理・支出計算を日記に付けるなど支援している。社会貢献できる自信を維持して頂きたいと考え、個々の持ち続けた能力を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の家族の受入れが可能な時間帯にはご自由にお電話を使用して頂ける様に支援している。 ダイレクトメールが送られてきた際は過去の生活歴を思い返せる機会に成り得るのでスタッフと一緒に開封し一緒に楽しませて頂いている。利用者の希望に応じて年賀状や暑中見舞いなど季節の便りを支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からの採光が良く、気候がわかりやすい。草花が多く、季節を感じ、五感に伝わることも多いと考える。季節ごとのイベントと共におやつや食べ物にも季節感に配慮している。朝から夕方までベランダなどの屋外に洗濯物を干し、晴れた日には太陽を感じ、雨空を見極めて洗濯物を取り込むなどの日常がある。庭先の花を摘み、それを食卓に飾るなど情緒深く感じる場面も多い。利用者の手作りの物や気に入った物を飾ったり、居心地易さに工夫している。	利用者同士が居心地良く過ごせるよう座席の配慮をしたり、七夕の短冊などを飾り季節感に配慮しています。リビングや廊下の他、エレベーターホール、広いテラスや玄関前にも椅子やベンチを置き、好きな場所を選び寛げるよう配慮しています。利用者はできる家事を自主的に行いながら自由に過ごされています。また加湿器を置き、温湿度の管理に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先やバルコニーでも心地よい風を受け静かに過ごす事が出来る。気の合った利用者同士、バルコニーのベンチで憩う様子も日常的である。外の陽だまりの中でお茶を飲んだりできる工夫もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、日用品を持ち込んで頂いている。あえて、新しいものは必要ではないことを伝え、説明している。	居室には必要な物は自由に持ち込むことができ、大切な仏壇や自宅で使っていた鏡台、座り慣れたソファなどを持参し、ベットの頭の向きなど本人に確認しながら過ごしやすいよう配置しています。また家族の写真を飾ったり、好きな雑誌を読む方や朝、夕仏壇に手を合わせる方もおり、習慣を継続しながら安心して過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	記憶の交差など混乱が見られた場合、問題点に着目し、混乱が軽減するような支援を勘案している。ゆっくりと説明、何度でも説明、わかりやすい表示など実施している。成功体験を実感し自信を持ち続けることが出来る様支援している。		